

啓伸塾便り

12月号
(師走)
December

基礎学力を重視する学習塾
啓伸塾
ただ今、冬の新入塾生募集中

「読解力」は人生に欠かせない力

参考文献 なせ、読解力が必要なのか？ 池上彰 著

読解力とは、訓読みすれば「読み解く力」といえます。読み解く力とは、「小説を読んだ登場人物の気持ちや想像する」「評論を読んだ著者の主張を考える」といった国語の授業で問われることです。

しかし、それだけでなく、生きていく上で、常に必要とされる力でもあります。

例えば、住宅や携帯電話の契約書、税金や保険の手続き書類、友人とのメールやSNSでのやりとりなど、正しく理解しないとトラブルになる文章は、身のまわりに山とあります。また、文章だけでなく、人間関係を円滑にするためには、会話にも読解力が必要です。

この「読解力」を、十五歳を対象に実施した38の先進国が加盟するOECD諸国のPIISA調査で、日本は世界ランクで、十年で四位から十五位にダウンしました。

子どもたちの読解力低下の原因は、「読書などで長文に触れる機会が減ったこと」「SNSなどで短文のやりとりの増加で、長文を読み書きする機会が減少したことが一因」と文部科学省は言及しています。

また、NTTのモバイル社会研究所が2021年11月に実施した親子に関する調査では「LINE」「TikTok」「Instagram」「Twitter」などSNSを利用している中学生は9割のほのういほ。

特に利用率の高い「LINE」はクラスや部活、習い事の連絡網の役割も果たすなど子どもたちだけでなく、保護者にとってもはや欠かせないSNSです。

家族や友達との短文のやりとりは、意味さえ通じれば、正しい日本語でなくても、砕けた話し言葉で会話が成立します。そしてメッセージにもやりとりが進むので、はっと書いてはっと送信し、送信

不思議なほど勉強に入っている
「やる気モード」への切り替え方！
教科書・ワークを机に開いて家を出よう！
和田式勉強のやる気をつくる本 受験技術研究科・精神科医 和田秀樹 著より
「勉強するのが面倒だから、机に向かえない」本当にそうだろうか？
こんな想像をしてみてください。
家に帰ったら家庭教師がニコニコして待ち構えている。
「お帰りなさい。さあ今日は英語の現在完了の利用の復習をしよう。まずはこの問題を解いてみようか」と指示される。
机の上には親切にも今日やるべき問題集のページが開いてあり、わきにはノートと鉛筆も用意されている。これはラクだ。
抵抗なく机に向かえるだろう。
しかも、椅子に座った瞬間、スッと勉強に取り掛かれる。
「面倒だ」「やりたくない」などと言っているヒマはない。
つまり、本当は「勉強するのが面倒」なのではないことに気づいてほしい。
「何を勉強しようと考える」のおおっくうだけなのだ。
前日の晩に、「明日帰ってから勉強すること」を決め、机の上に勉強道具を一式そろえてしまう。
その際、予定している問題集や教科書の該当ページを開いておくのがポイントだ。
ノートや筆記用具、辞書類などの必需品も、すぐ手の届くところに配置する。
ここまでの準備をしてからぐっすり眠り、翌朝家を出る。
学校から帰ってきて机を見ると、さあ、「さっそく始めようか」とばかりにすべてが用意されている。
面倒なことは一切ない。机に向かった瞬間、自然に勉強に取り掛かっている自分がそこにいる。「今までの自分はなんだったのだろう」と思うことだろう。

今月の予定
冬期休講は下記のようにさせていただきます。
12月30日(月)～1月5日(日)
◇年始は1月6日(月)より通常の授業を行います。ただし、中3生は冬期講習を行いますので上記の冬休みは適用されません。
冬期講習の日程については、別紙にてご連絡いたします。
中3生の冬期講習は、12月21日(土)から始まります。
◇12月 7日・8日(土・日) 中学3年学年末テスト対策
◇中1・2生の冬期補習の日時は、別紙にてご連絡いたします。

するまでに自分の書いた文章を推敲することなく送ってしまったことがほとんど。
感情表現も絵文字やスタンプなどのイラストで表現できてしまったため、文章で伝える必要がありません。
推敲を重ねて文章の質を高める努力をしてきていないのです。文章をブラッシュアップする習慣がないために言い回しや表現は単純なものになり、それらを読み取る方も育ちにくいのです。
子どもたちを取り巻く情報環境は、驚くほど変化しました。自分のスマートフォンはまだ持っていないなくても、タブレットや親のスマートフォンを日常的に使っている未就学児や小学生も増えていきます。その結果、スマートフォンやタブレットなどで、インターネットを使用する時間が増える一方、読書量が減少しています。また新聞を購読している家庭も少なくなってきました。子どもたちの活字離れが進んでいると思われれます。
読解力という小説などを思い浮かべますが、国語に限らずどの教科を学ぶにも文章は避けて通れません。近年の高校入試の問題は、暗記や知識を問う問題から、数学などの教科の問題にも長文問題、英語・理科・社会では、グラフや統計などから何が読み取れるかを問われるなど、この教科も読解力が必要とされるようになりました。
読解力が乏しいと問題文の内容を理解することや、そのグラフが何を表しているかさえ読み取れません。「読解力がないから国語は苦手だけと理系科目はできる」などが、通用しなくなってきたのです。
読解力が下がっているのは、子どもだけではありません。実は大人も正しく文章を読めない人が、増えているといえます。読解力のない人は、文章を読んでいるのではなく、単語だけを拾い読みして、自分勝手に単語を繋げて内容を構成してしまうので、本人は文章を理解したつもりでも、本来の内容とは全く異なる内容を自分の中で作り上げてしまう傾向があります。
SNSの短文やメールで正確に読まなければならない。内容を勝手に誤解釈していいから「LINE」を返信する人も少なくはない。
読解力を高める方法は、次号でお伝えします。